

病 理 学

1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 笠井謙次
【科目担当者】

2 教育目標

(1) ねらい

病理学は、Rudolf Virchow 以来の経験に裏付けされた形態学を基盤としつつ、最新の分子細胞生物学的知見を積極的に導入した「統合の学」であり、「病」の本質の理解を志す学問である。

本科目では、人体病理の学修を通じて疾患に対する理解を深めると共に、形態学的・分子生物学的研究を通じて、国際水準の疾患研究能力、特に腫瘍の発生・進展機構を解明する能力を身につける。

(2) 学修の到達目標

- ① 主要な腫瘍性疾患の病因病態について、未解明事項を指摘することができる。
- ② 研究計画を立案できる。
- ③ 病理形態学および基本的分子生物学的研究手法を実践できる。
- ④ 研究データの解釈ができる。
- ⑤ 研究結果を発表し、議論できる。

3 授業内容

【講義】	主要腫瘍性疾患の国際分類および病因病態における問題点について概説する。また病理組織像の分子的理解のための免疫組織化学染色の理論と応用について講義する。さらに腫瘍性疾患の発生・進展に関わる分子細胞学的異常、特にシグナル伝達異常と細胞骨格制御機構・遺伝子発現制御機構の異常について、最新の知見を講義する。
【演習】	腫瘍性疾患に関する最新文献の抄読を、特に critical reading を意識して行う。
【実験研究】	免疫組織化学染色、共焦点顕微鏡を用いた形態解析、FFPE 組織・培養細胞を用いた発現解析、遺伝子組み換え技術を用いた遺伝子・蛋白機能解析を行う。

4 成績評価の方法・基準

講義・演習での議論、実験研究でデータ発表と解釈、議論を通じて評価する。

5 教科書・参考図書

1. WHO Classification of Tumours.
2. Cancer: Principles & Practice of Oncology
by Vincent T. DeVita Jr., Theodore S. Lawrence and Steven Rosenberg. 2023.

6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

事前に教科書の該当範囲あるいは別途指示する参考文献による準備学習をすること。
(1週間に7時間程度の予習・復習が望ましい)

7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

腫瘍性疾患に関する論文作成を通じて, 人体病理学・分子病理学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

データの解釈, 議論が不十分な場合, 必要に応じ実験研究のやり直しや教科書・文献による再学修を求められることがある。

9 履修上の留意点

特になし。

10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	笠井謙次	火水木	16:00~17:00	研究棟 265号室	内線 12265